

テーマ 「パレスゾーンの再生」

目的

東京は、世界都市としての脱皮が求められている。近年、都市再開発により様ざまの新しい経済・文化の拠点がつくりだされてきた。しかしながら、東京のコアとなる皇居を中心とする内濠沿いのエリアは、国の中枢機関が集中しているため、所管する主体が多様であり、国民の目線にたった空間の在り方、活性化の方向については、ヴィジョンが存在しない状況となっている。

一方、皇居マラソンなど、市民の利用も活発となっており、様ざまのNPOも活動をおこなっている。また、千鳥ヶ淵戦没者墓苑の問題、霞が関の財務省など庁舎の再建等、国家的プロジェクトが進行している。

本設計演習は、このような現状を踏まえて、パレスゾーンの再生について、国際都市として、内外の観光客の誘致、国民の目線にたった利用の視点から、その将来像を描くものである。

スケジュール

6月4日 : 現地調査、問題点の発掘

6月11日 : パレスゾーンの歴史的変遷と現状について (講義 : 石川)

演習1 : 現況問題をまとめ、課題を抽出する

6月18日 : 将来ヴィジョンに向けた基本理念と戦略プランの提示、

6月25日 : 将来ヴィジョンの提示とプレゼンテーション

(東京都、千代田区、NPO東京セントラルパークなどの関連機関のジュリ
ーへの参加)

担当教員 : 都市工学専攻教授、石川幹子

まちづくり大学院非常勤講師、登坂 誠 (日建設計)

まちづくり大学院非常勤講師、山下英也 (SEED環境計画)

GCOE都市持続再生センター特任助教、片桐由希子

TA 高取千佳